

【私たちを支えている水】

福岡県 北九州市洞北中学校 三年 佐井 ななみ

「水」は私たち人間にとって生きていくために欠かせない大切なものである。水道の蛇口をひねれば、簡単に水が出てきて何も考えずに飲んだり、使ったりすることができる。日本は水資源が豊かで、水が豊富にある国だと思っていた。

しかし、降水量が毎年減ってきていて、近年では各地で水不足が問題になっているというニュースを聞くことが多くなったように思う。実際に福岡県からも昨年八月以降、雨の少雨傾向が続き、現在ダムの貯水率が少しずつ低下しているため、節水の協力が呼びかけられていた。

しかし、その一方で雨が降らないというわけではなく、大雨による災害も発生していて、毎年日本のどこかで水の被害が起きている。私たちの住む九州北部においても、二〇二三年七月に線状降水帯が相次いで発生し、各地で記録的な大雨となっていたニュースを連日、テレビで見ていたので、大きな被害だったと記憶に残っている。

せつかくの雨もこのようにして降った大部分が水資源として利用されなのまま、安定した水の確保とはならず、水害として終わってしまう。これは、自然を相手にしている難しさなのだろうか。水は限りある大切な資源なのだと改めて感じさせられる。

このような大切な資源、生きていくために欠かせない「水」を私たちは毎日の暮らしの中で、どのように使っているのだろうか。私たちが家族で使う水の量は、一人一日あたりおよそ二三〇リットルとのこと。生命維持として大切な飲み水としてはもちろんのこと、炊事やトイレ、歯みがき、手洗い、お風呂など私たちはいろいろな場面で水を利用していることを改めて実感した。

このように生活の中で使用している水の割合を調べると、お風呂が最も多

く全体のおよそ四〇パーセント、次にトイレでおよそ二〇パーセント、炊事が十八パーセント、洗濯で十五パーセントとこれらが一日の使用量の九〇パーセント以上を占めていることが分かった。飲み水などは意外にも少なかった。

このことから、一日の使用量の九〇パーセント以上を占めているお風呂やトイレ、炊事、洗濯の場面で水の使い方を見直してみると節水につながると思った。

お風呂では、シャワーを出したまま髪の毛や体を洗わない。お風呂の残り湯は洗濯や掃除などに利用する。炊事では、食器の汚れをふきとってから洗い、すぐ時間を短かくする。蛇口はこまめにしめるなど日常生活ですぐに実行できる行動を心がけていきたい。そして、それが毎日の生活の中での水の使い方を見直しとなり、節水につながれば嬉しい。

私一人ができる節水は小さいかもしれないが、これが社会全体で考えたら、大きな節水につながり、大切な水資源を守れるのかもしれない。「蛇口をひねれば水が出る」ことはあたりまえではないこと。水は限りある大切な資源であることを忘れず、私たちの生活に「水」があることを感謝して、その「水」を守るために私たち一人ひとりができる努力をすることが大切だと思った。